

適切な水管理と病害虫防除を！

8月日	上旬			中旬		下旬	
	1	5	10	15	20	25	30
生育	出穂期			傾穂期		乳熟期	
水管理	湛水管理（カドミウム吸収抑制対策）						間断かん水
	※最終落水：出穂30日後						
作業	★斑点米カメムシ類対策						
	薬剤防除			薬剤防除			
	薬剤防除後7日以内 農道・畦畔草刈り 休耕田・法面 草刈り禁止期間						

1 7月25日現在の生育状況

○7月25日現在の生育は、草丈が平年比113%と長く、茎数は平年比102%と平年並、葉数は平年差+0.9葉と多い状況です。

○葉色は、6月25日以降、平年並～濃く推移しており、7月25日現在も平年比109%と濃くなっています。

○7月25日時点で全調査ほ場が減数分裂期（葉耳間長±0）に達したと見られます。

○5月20日頃に田植を行ったほ場の出穂期は、8月4日頃と予想（7月26日現在）されます。今後1週間の気温は平年並～高い予報となっており、出穂期は平年並～早まると予想されます。各管理作業が遅れないよう、注意してください。

表1 水稻定点調査結果（農業振興普及課）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	81.7	552	13.3	41.3
平年値	72.3	542	12.4	37.8
平年比・差 (%、±)	113%	102%	+0.9	109%

品種：あきたこまち、管内5カ所平均

2 水管理 ～出穂前後各3週間の湛水管理でカドミウム対策を～

○カドミウム吸収抑制対策として、湛水管理を実施します。

○湛水管理により田面が空気に触れないように保ち、土壌を還元状態にすることでカドミウムの溶出を抑え、水稻に吸収されるのを防ぎます。

3 病害虫防除 ～ほ場の見回りによりいもち発病状況を確認～

①いもち病（穂いもち）

- BLASTAM（アメダス）の判定によると、管内では7月9日、10日、20日に感染好適条件が訪れたと判断されています。
- 葉いもちの発生が確認されるほ場では、コラトップ剤またはゴウケツ粒剤（サンブラス粒剤）のいずれかを出穂15～7日前までに散布するか、出穂直前にビーム剤（またはトライフロアブル）と穂揃期にラブサイド剤（またはトライフロアブル）の茎葉散布を行います。
- 本田での総使用回数は、テブフロキン剤（トライ剤）は2回、フサライド剤（ラブサイド剤、ブラシン剤等）及びトリシクラゾール剤（ビーム剤、ノンブラス剤等）はそれぞれ3回以内となっているので注意してください。

②斑点米カメムシ

- 7月17日に病害虫防除所から斑点米カメムシ類に関する注意報が発表されました。
- 薬剤防除は、イネの出穂期（ほ場全体の40～50%が出穂した日）を確認し、出穂期10日後頃にアルバリン剤またはスタークル剤の茎葉散布を行います。
- 出穂したカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場、またはイネ科植物が主体の牧草地や休耕田等に隣接したほ場では、出穂期10日後頃の散布に加えて、出穂期24日後頃にもキラップ剤またはエクシード剤による茎葉散布を行います（下図※）。
- 近隣に水稻以外の作物（野菜等）がある場合や養蜂業者がいる場合は、薬剤散布前に情報交換を密にして散布を実施してください。
- 農道・畦畔の草刈りは、出穂10日前を目安に一旦終了し、**出穂10日後頃の薬剤防除の後（7日以内）に草刈りを1度行います。**これにより、斑点米カメムシ類の増殖元となるイネ科雑草を除去します。その後は、収穫2週間前（9月上旬）まで草刈りを中断してください（下図参照）。

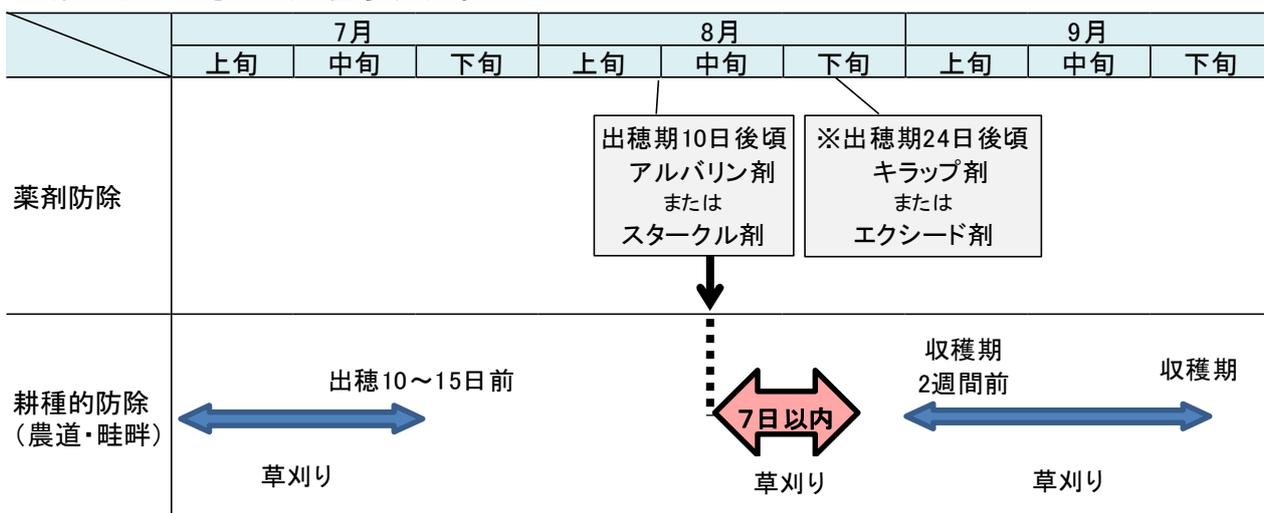


図1 斑点米カメムシ類の薬剤防除と耕種的防除

！今後も高温の予報！作業前に「熱中症特別警戒情報」等の発表状況を確認しましょう！

あきたこまちRを
紹介しています！
紹介ページはこちら→



秋田米栽培情報発信
LINE始めました！
友達申請はこちら→



※クマにご注意
ください※
クマ情報はこちら→

